

大石主税！作花旭友！松の廊下！辻旭城！義士討入！石橋旭嶺！別れの盃！田中歎水！雪のあけぼの！奥村旭美！大高源吾！天津八千代！高田の馬場！中島旭穂。外に子供の義士行列や討入そばの接待などを一般参拝者も多く終日賑った。

日本芸術琵琶協会十二月例会

十二月十七日(日)昼一時東京文京区大塚の席貸京屋にて開催。お江戸日本橋その他の連弾を山崎錦幽の序奏に続いて山科の別れ！坂入俊風！西郷隆盛！伊与田詩水！井伊大老！原田旭鳳！海陽江！青木早水！異国の丘！錦幽！二〇三高地！長岡旭玲！川中島！内田直良！別れの盃！高田米水！名残の縮琴！若宮旭登！鉢の木！杉山旗水。以上演奏のあと忘年の宴を閉き七時散会した。

日本琵琶協会の定期総会

一月二十日(土)昼二時東京豊島区高松高三会館。議事！五十三年度決算報告、事業報告。五十四年度事業計画、予算審議。役員改選、創立二十周年記念事業。その他。夕四時半！六時新年懇親会。会費千五百円。

電話開通

山崎旭萃女史 高槻市宮田町の新居に電話開通(〇七二六)九三三一一五九番

転居

三上勝江女史 東京都板橋区高島平二一六〇九番に転居。

訃報

木村維水(彦六郎)氏 一昨年来病氣療養中のごとく一月七日肺がんにて惜逝、享年八十。大正五年有坂秋水師に就き奥伝、雅号允許、大正八年から昭和三年まで勤務先の上海、漢江両支店に勤め昭和五年同志と共に京都協好会を創設して活躍。同四十年京都琵琶協会、四十二年一水会京都支部にそれぞれ入会して現在に至る。翌八日の告別式には平井京都琵琶協会长、馬場一水会京都支部長以下琵琶人多数送葬した。謹んで哀悼の意を表し御冥福を祈る。(鎌倉市千代川町今津南有尾十九ノ三)

予告

○：京都琵琶協会二月定期例会 二月四日(日)午後二時本部平井春嶺氏宅。
○：梅原旭濤会演奏会 三月十一日(日)正午京都商工会議所ホール。
○：入江岳秋師追悼演奏会 三月十一日(日)昼名古屋中小企業会館、主催前田秋声会。
○：日本琵琶協会の関西支部第二回名流会 五月六日(日)朝十時半大阪南区なんば高島屋ローズ劇場(千五百円)

あ 元日晴れ、二日晴れ、三日晴れ、と、七日正月が済んでも暖かな晴天が続いて、これで元日に年賀葉書がどっさり配達されたら申しぶんのない良いお正月であったろうに年賀葉書は毎年三百枚あまり筆者は頂戴するが、今年元日に届いたのは只三十七枚。それから二日、三日、四日と五日に約百枚、六日二十枚、八日二十一枚、この様子では全部頂くのは一月末ごろとなるのではあるまいか。年賀葉書のほか一般郵便物も無茶苦茶で京一月月号年賀交礼掲載のお申し込みも締切後の到着分はどうかならず、やむなく本号に「寒中見舞」として載せさせて貰った。郵便屋さん、しっかり頼りなまっせ、ほんまに本号別掲の絃友木村維水君の訃報は療養中の経過もよいと聞いていたのに晴天の霹靂で、昨年八月に亡くなった古谷寛水君と共に身近な同志として筆者とは特別親交の間柄であっただけに一入淋しさが身に沁みる。両君とも立派な人格者で常々畏敬の念をもって交際を願っていたのに惜しい人がだんだん他界されて情けない次第。泣き言を並べて相済みません。

昭和五十四年二月一日発行(非売品) 編集者 植村 寛 水 発行所 高槻市津之江北町一ノ二二三 電話 〇七二六(七三)六〇五一番

琵琶 機関紙 京 絃

第二九六号 京 絃 社

琵琶 (五)



村山道宣

都を中心とする琵琶楽の流れ

琵琶楽の起り さて、私はここで、盲僧琵琶の世界から、少し、目を転じ、都会を中心に、展開して行った琵琶の歴史について、振り返ってみることにしたい。

我国に琵琶が伝来したのは、一体何時頃のことだったのであろうか。

法隆寺金堂の天蓋には、種々の楽器を奏している一群の天人像(楽天)の姿が見られる。これらの楽器の中には、四つの琵琶が含まれている。この天蓋の楽天の制作年代について、町田幸一氏は、六八〇年前後に完成されたものであろうと推定し、またその楽器についても、「白鳳の楽器の姿を伝えるものであろう」と述べられている。

また正倉院には、東大寺献物帳に天平年間(720-749)の奥書きのある唐から伝来した三面の琵琶が

あり、その他にも五面の琵琶が所蔵されている。

そして、奈良前後に伝えられたと云われる雅楽の管絃合奏の一員として用いられる楽器に琵琶がある。楽琵琶は以後、宮廷、神社仏閣などで行われる雅楽の管絃合奏の重要な一員として現在まで使われて来ている。

その後、平安時代に入り、承和五年(八三三)には、清唐使の一員として入唐した藤原貞敏が唐に於いて琵琶の演奏法を修得し、帰朝している。そして平安時代を通じて、雅楽の変遷とともに、琵琶の調子や奏法にも、様々な工夫が加えられて行ったのであろう。そうした中で、平安貴族達は、雅楽の合奏以外に、独奏楽器として琵琶を用い、催馬楽、東遊、風俗などの俗謡を琵琶に合わせて歌い遊んだと云われる。また、このような時に用いられた琵琶も楽琵琶であった。

琵琶法師

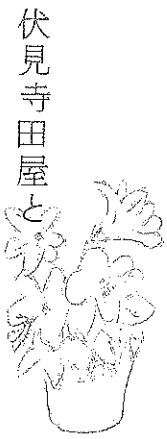
平安の貴族の間で嗜まれていた琵琶は、その後、次第に庶民の手にも渡るようになって行った。中山太郎氏は、その実例として琵琶を弾く、遊び女や、傀儡師の例を挙げている(「日本盲人史」)。琵琶がこのようにして下層芸能者の手に渡るようになってくるとともに、盲人の芸能者もまた、琵琶を弾くようになり、いわゆる琵琶法師なる者が生まれて行ったのである。中山氏はまた、我国の盲人が琵琶に親しむようになった理由について、「天台・真言の新仏教によって鼓吹され普及した(声音成仏)の信仰に盲人達も琵琶を手にして参加するようになったからであろう。……と述べている。

一般に琵琶法師の祖として知られている「蟬丸」についての数々の伝説も、また、このような世の移り変わりの中で、創られて行ったであろう。博雅の三位という貴人が、逢坂に住む盲人の琵琶法師、蟬丸のもとに、三年もの長きにわたり、毎夜通いつめ、遂に「流泉・啄木」という秘曲を伝え得たというこの説話は今昔物語などにも出て来るが、ここに登場する「蟬丸」は、逢坂の関の護り神(関の神)として祭られ、琵琶法師の信仰を得たにとどまらず、後には説経・讀語・勸化師など、音曲芸能者達の祖神と仰がれるに至るのである。

このように、平安時代後期には、既に、「琵琶法師」というものの存在は貴賤を問わず、

広く世人の関心を集めるようになっていたのである。中世に近づくとともに、下層の宗教者、芸能者などの漂泊の民は急速に増え行った。その雑多な漂泊の民の中には、祈禱をする旨目の琵琶法師、また、物語を語る琵琶法師などの姿も見られた。「関の神」を祭る彼等は、諸国を巡り歩き、社寺の祭神などにも加わり、琵琶を弾き、絵解をしたり、物語を語るなどして、日々の糧を得ていた。

中世に入ると、琵琶法師達は、それまで絵解として語られていた「保元・平治の物語」、また、「平家物語」などを、琵琶語りとして語るようになって行った。



伏見寺田屋と
維新の先駆者坂本龍馬

辻 旭城

歴史に心ある日本人ならば、京都伏見の史蹟「寺田屋」を知らぬものはないだろう。かつては淀川を遡って京都に赴く三十石舟の船着き場として、殷賑を極めた伏見かいわいにあって、薩摩藩の定宿と指定された寺田屋は、幕末時には西国雄藩の京に向う足だまりとなっていた関係から、勤王運動の烽火ともなった「寺田屋騒動」をもって、幕末史の第一ページを飾ったものである。

薩・長・土各藩連合と維新回天の大業実現のため、東奔西走した土州藩士坂本龍馬は、薩摩藩の賓客としてしばしば寺田屋に投宿していた。

船宿寺田屋としての名残りは、日本の基礎づくりの明治新政府の諸講想と、勤王倒幕に命をかけた西国諸大名の、政事連絡の場として各種の会合に使われていた。

同志、中岡慎太郎を始め西郷隆盛、大久保利通など、しばしば寺田屋に泊ったという記録が残されている。

江戸時代の中頃から明治の始めにかけて、有名な三十石船が貨客を乗せて淀川を上り下りの繁昌で、京橋近くの船着き場には十数軒の大きな船宿があったが、明治十年頃になって京都大阪間の交通が便利になると、さしも豪華を誇った三十石船もいづしか寂れ行き、船宿も寺田屋だけ残って、外はこの界限から次ぎ次ぎと消えて行った。

寺田屋騒動は、明治維新の魁ともいえる大きな事件であった。薩・長・土の三藩連合は勿論、一藩の統制もなかなかと難く、薩摩藩内に於ても、穏和と急進の二派にそれぞれ分かれていた。

急進派は文久二年の春、藩主島津久光が政治上の問題で東上したのを幸いに、当時幽閉中の尊皇親王の監禁を解き、反対派の関白九条尚忠、所司代酒井忠義らを斬り、勢いに乗じて勤王倒幕義挙の端を開かんとした。

大阪薩摩藩邸にあった有馬新七をはじめ、

田中謙助、西郷信吾、大山弥助、篠原冬一郎らは、人目を避けて大阪堺筋の旅宿魚太樓に長逗留している橋口壯介、同伝蔵、弟子丸竜助、柴山愛次郎らと熟議の結果、いよいよ二十三日の夜を以て事を挙げることに決定した。

この日未明、有馬新七ら二十余名は四隻の舟に分乗し、兵器火薬などを積み込んで淀川を上り、少しおくられて田中河内介、真木和泉外十余名もあとを追ひ、一行は夕方寺田屋伊助方に入った。

この報に接した島津久光は、自ら新七らを説得せんとし、まづ彼等と親交のある奈良原喜八郎、大山格之助ら九人の刺客を寺田屋に遣わし、再三問答を重ねたが有志の義挙を断念させることが出来ず、短気の五郎兵衛は一声高く「上意」と云いさま田中謙助の肩間に斬りつけた。これを機に乱闘が始まり、忽ち流血の惨状を呈して双方共に死傷者を出した。そこで奈良喜八郎は両刀を抛って手を合わせ、速やかに静まらんことを乞い、河内介、和泉に向って君命を伝え、丹誠を披瀝して説いた。漸くにして、和泉は同志を制止して一時義挙の中止を説き伏せ一同打連れて京の薩摩藩邸に行くことに決した。

慶応二年の正月、坂本龍馬は長州藩士三吉慎蔵と共に長州を出発して大阪に着いたが、大久保越中守から両士の身辺に危険が迫っている旨を知らされたので、二人は短銃と手槍を用意して伏見の寺田屋に投じた。そうして薩長連合の計画が着々と進捗してきたので、

二十三日夜、両士は寺田屋の二階で盃を傾けて歓談していたが、その前後、寺田屋の前で多人数の足音が聞こえて来たので、入浴中の仲居お竜が只事ならじと、浴衣のまま竜馬の部屋に駆けつけて急を知らせた。そこで竜馬は高杉晋作から贈られた短銃を、三吉は手槍を以て身構えた。

やがて幕吏達が案内も乞わずに階上に来て「京都守護職松平肥後守の命令である。奉行所まで同行せよ。」と命じた。竜馬は大喝一声、「われらは薩藩の者である、偽りと欺りならば薩藩に照会せられい。」しかし幕吏は遮二無二両士を捕縛せんとしたため、坂本は短銃を発射し、三吉は槍を振るって抵抗した。

そして、そのひるむ隙を窺って、二人は裏の木戸から裏通りに出て川岸の材木小屋にかくれたが、幕吏の搜索はいよいよ厳しく三吉は、斯くなる上は潔きよく切腹しようと思つたが、坂本はこれを制し、死はもとより覚悟の上であるが、伏見の薩藩邸も間近かであるから、君馳せて急を告げよと勧めたので、三吉は九死に一生を得て藩邸に辿りつき、大山彦八郎に事の顛末を報じて救援を求めた。

大山は直ちに小艇に藩旗を立てて竜馬を出迎え、両士は幸いに恙なきを得たのである。

「幕末の維新のさまをまのあたり
みる心地しぬ寺田屋に来て。」

(次号に文芸評論家因藤泉石氏の「坂本竜馬碑考」を掲載の予定)

我が道を行
六十五年(六六)

西郷 天風



思えば、この武漢攻略に従軍中、慰問らしい演奏としては、この部落での月見の演芸会が第一で、特筆に価するものであった。

それは丁度、珍竹林での催しが此の日のための予習みたいなものとなり、あれからここまでの数日続いた行軍中も、兵士達の話題や雰囲気、さながら珍竹林演芸会の延長に等しく、大阪毎日の連絡員で五十才に近いおっさんの如きは、口を開けば「そもそも〇〇〇の七不思議」と、あやしげに唄い出す。すると兵士達もその声に合わせて、楽しげに叫び廻るその仕草は洵に無邪気そのものであった。

かゝる情勢のなかに催されるこの月見の演芸会には、僅かながら酒と肴の配給も加わって、出演種目も珍竹林のそれに倍する勢いとなれば、自然に進行係も出現し、私は最後に「九連城」を演奏したが、その二人ばかり前の漫談の頃から砲声が三回ほど聞こえたようであった。しかし定かならぬまゝ、誰もが口にするに至らなかった。ところが「九連城」も半ばに達した頃、今度は明らかに大砲の発射音であり、それもこの建物の後方小山の彼

方らしく、三発目ころから聴衆の後方、遙かの湖水上に、水柱高く打上げること三発にも及んだが、この催しの初めに部隊長から、もし前方の敵が砲撃を開始してもこの家屋には関係なく、庭先遙かの湖水中に落下するだろう、この部落に落ちるような砲丸は、角度から見て裏の山林にひっかかり、この家屋は絶対に心配ないから、安心して演芸は続けよ、との証言があったためか誰一人動揺は見せなかつた。従って私の演奏も中絶することなく完奏、鼓に無事完了を祝し全員万歳を斉唱した。ところが、不思議なことに敵の砲撃も時を同じうして中止された。以上は総て夢物語でないことを確認する。

なお、これは珍竹林の慰安会少々前、遅ればせに飛び込んできた福岡日報の記者君は、瘦形ながら六尺豊かな大男だったが、何処で手に入れたのか、一匹のポニー(ロバより小形の馬)を引連れ、行軍の途上で古物を拾い集めては腹帯や鞍、あぶみ等を作りながら、小休止の時など、馬具の試乗をする、その姿はさながらドン・キホーテそのまま、一行の眼を惹きつけていたが、この君仲々の芸達者で、琵琶演奏の後、私の吟声で剣舞二番つづけた。それも日本刀でなく、何処で見付けたものか青竜刀の、柄の方は全部腐れ落ちて、赤錆びた金属の部分だけが長く残ったところをぼろ切れで包み、いかにも扱いにくそうに振り廻すうち「人触るれば人を斬り」のところで自分の胸を突いた。青竜刀の柄は日本刀

寒中御見舞

日本琵琶楽協会東北理事
薩摩琵琶正絃会々員
正調詩吟八戸道場
穂洲最上 十太郎
〒081 八戸市内丸十一
電話 (二二二) 八七七五番

錦・都派琵琶
家元 都 錦 穂
外会員一同
〒113 東京都文京区根津二ノ一五ノ二
電話〇三(八二二) 五七〇八番

錦心流琵琶
馬場 鴨 水
〒606 京都市左京区下鴨夢舎町一六
電話〇七五(七八一) 三〇五〇番

錦心流琵琶
榎 村 寛 水
日本琵琶楽協会々員
錦心流一水会々員
京都琵琶協会々員

錦心流琵琶輝派
輝水会本部

会主 輝 錦 凌
外会員一同
〒113 東京都文京区本郷五ノ二丁三号
電話〇三(八一) 七五七四番

翠琵琶宗家

竹下 翠 風
〒168 東京都杉並区下高井戸五ノ二二
電話〇三(三〇三) 五八九四番

岳城流薩摩琵琶

広川 岳 楓
〒060-91 札幌市中央区南六条西七丁目
電話〇一一(五一二) 七二五二番

のより長いのでそれだけ疵(創)も深く、一旦上海へ戻ったまま再び此の戦線へは顔を見せなかつた。

さて、この月見の慰安演芸会数日後大治泉城に入り、雨のそぼ降る夕刻、軍のトラックに便乗、武昌攻略に従軍した私は、翌日同じトラックによって揚子江北岸の要港安慶に急行一泊、翌朝此処に駐留する九州の鹿野谷航空隊の好意で、上海の大場飛行場に着陸したのが夕闇迫る頃だった。同乗車は五、六名だったが、着陸早々ハイヤーやトラックで次ぎ次ぎに立ち去り、方角も判らぬ薄暗い滑走路上一人取り残された私は、ぼんやりと行先を判断しかねていて、空の明かるく見える方角から一台のハイヤーが来て私の前に止まり、中から「どちらへ行くのですか」と問われ「ヤアこれは有難う」私は先に礼を云ってしまった。「北四路の「横浜橋」(ワシントンジョー)です」と答えれば「ア、それはよかつた、どうぞ」とと座席を明けて呉れ、琵琶ケースを抱えた私は涙する程嬉しかった。

ところで、私は上海に来た当時から、北四路路横浜橋から這入った「東宝興路」トンポ一シンコ薄アパート一号室に居を構え、毎週交互に南京へ出張、南京大陸新報の社友然と出入し、或は上海の日華子女親善協会等の客員となつて、日華親善運動に協力をも続けていたのであつた。

芥川の鬼(上)

宇津木 秀 甫



むかしむかしのこと。
京のみやこに若いお公卿(くげ)さんがいはつてね、町をあるいてはると、あるお屋敷できれいなお姫さんがいやはるのを見たんやね。「わい、きれいなお姫さんや」おもつてね、胸がドキドキしたんや。
ぼんで、その若いお公卿さん、それから毎日のように、そこのお屋敷のまわりウロウロあるき廻らはるようになったんや、誰でも若い頃はそういうことするもんやねんな。
それがなあ、お姫さんの顔を見ても、別にどうこういうわけでもあらへんのやね。ただもう、きれいなお姫さんの顔が見たいのん。ぼんでもう、お屋敷のまわりをウロウロ、ウロウロする。

ところがね、そのうち、とうとうねえ、ある朝のこと、早よう早よう目エさましてしめてね、そとへ出ると足が勝手にそのお屋敷の方へ向くのん。そして、門の中へはいってしまつた。
ぼんで庭をウロウロしてね、朝が早いさかい、お屋敷の人は誰あれも起きてはらしまへ

んやろ。あつちこつち歩いてね、とうとうお姫さんが寝たはる建物の所へ来てしまつた。考えてもしてへんこと、してしまつたんや。障子のそこからトントン、トントン、叩いてみたんやね。
ぼしたら、障子があいてね、お姫さんが顔みせはつたん。
どないしよう。何というたらよいやろ、何んにも考えてへんのやもんね。あわてて「おんぶしまひようか」いうたん。
ちよつとおかしいわな。ぼしたらお姫さんが「はい」というて、背中に乗って来やはつたんで、若いお公卿さん、びっくりしてしまつたんや、夢を見てるような気持ち。

ぼんでね、お姫さんをおんぶして歩き出し、お屋敷から出てしまつた。だんだん足が早よなるんや。お屋敷の人が目エさまして、追いかけてくるか知れまへんやろ。そやさかい、お姫さんを盗み出したことになつてしまつて、逃げるようにドンドンあるいて、みやこを出て西へ西へとあるいてね、とうとう日の暮れには西国街道をやつて来て、芥川あたりに来てしまつた。
もう道ばたの草に夜露が出て光つてんのをお姫さんが見て「あ、白玉でしよ、あれは」いうのん、お姫さんやさかい、夜露いうようなもの見たことないのんやね。
つきにはね、雨が降り出したん。夕立ちでどしやぶふになつて、かみなりも鳴り出したん、あわてて宿をさがそうとして考えたんや。

「みやこから追いかけてきてるに違いない、宿に泊ってたら探し出されるやろ。」

「ここで夜をあかそう。」そう思うて、お姫さんを連れて倉の中へはいったんや。まっ暗がりて、そとは雨とかみなりやろ。お姫さんほこわがって、しがみついて来やはるのん。それを振り離して「みやこから追っ手が来る、そいつが来たら弓で射ち殺してみせる。」

うてね、若いお公卿さんは倉の入口のところへ出て、弓と矢を持って立ちほだからはるのん。お姫さんは倉の奥で一人っぼっち、かみなりも恐いし、ブルブルふるえてはったやね。ほな、そこへ、一口鬼が出てきてね、お姫さんはたった一言「こわい」いうただけで、

バクッと鬼にたべられてしもたんや。お公卿さんにはね、かみなりの音で何も聞こえんかったんや。

朝になって雨もやんで、お公卿さんが倉の奥にはいつてみたら、お姫さんの姿はもう見えなんだ、ぼんで泣いてね、お公卿さんが作らばった歌が「白玉か何かとひとのいいしとき露と答えて消えなましものを。」

「茨木の鬼」はこれまで何回も紹介されましたが、今度は「芥川の鬼」です。前の機会に、鬼について解説しましたが、またもう少しつけ加えておく必要があるようです。

（註・芥川は摂津やば溪の下流で高槻市の中央を流れる一級河川）

「黄金の日々」余聞

徳川家康は泉州堺で死んだ。まさか、と思う人が多いだろうが、テンプラにあたって駿府城中で死亡したというのは真っ赤な

いっつわり、実は、大阪夏の陣の時、堺で亡くなったが、喪をひた隠しにしていた、というのが正史に対する「堺史」である。

堺と家康
家康は信長と同盟を結び、足利将軍、武田朝倉などの旧勢力を破り、わが国近世への窓を開いた武将のひとりだが、本能寺の変の後、秀吉の臣下となった。が、秀吉の死後、豊臣家にさまざまな口実を設けて挑みかかり、元和元年（一六一五）に大阪方を落城させ、徳川三百年の基礎を固め、そのほぼ一年後の元和二年四月十七日に駿府城で病死した、というのが正史である。

ところが、堺に伝わる家康伝は違う。大阪夏の陣で、最後の決戦を挑んだ真田幸村勢に

本陣をつかれて敗走。大阪・平野あたりで家康が後藤又兵衛に刺された。カゴにかつがれ、堺の南宗寺に逃げこんだが、間もなく落命した。「家康死す」と大阪方にわかれば、諸大名が再び豊臣に寝返りを、と見た側近が体つきの良い似た小笠原秀政（この功績で後に古河城二万石の城主となった）を家康に仕立て、家康の遺体は南宗寺の昭堂の床下にひそかに埋めた。これが真相だと伝えられている。

その床下には家康を弔う印塔があったが、第二次大戦の堺空襲でなくなった。また、戦災まで権現堂もあって、毎年五月に権現祭が催され、草市が開かれたが、これも終戦とともに消えた。いま、境内の坐雲亭の近くに「東照宮徳川家康墓」が立派な御影石で建てられている。これは、昭和四十年ごろ水戸徳川家初代家老三木仁兵衛の子孫、三木啓次郎氏が「家康堺死亡説」を主張し、共鳴した岩上二郎茨城県知事、河盛安之介堺市長、塚原俊郎国務大臣、松下電器の松下幸之助氏ら九人が、四十二年四月十七日に建立した。

二代将軍秀忠が元和九年七月十日、三代将軍家光が同年八月十八日に南宗寺を訪れているが、この時期、面將軍が堺を訪れなければならぬ理由はない。將軍交替の報告や菩提を弔うために堺にやって来たのと、埋葬してあった家康の遺体を静岡奥久能山に改葬するためだったという。更に正史では、豊臣が滅亡して約一年後に家康は死んでいるが、この間、だれとも殆んど会わなかったのも確かだ、

「茨木」 「道成寺」 「戻り橋」 「恩讐の彼方へ」その他幾多の名作で琵琶界に大きく貢献し各派琵琶人に馴染み深い故大坪草二郎先生の歌碑が今般信州諏訪湖畔に建立され一月六日その除幕式が厳肅裡に挙行された。

なお、先生遺作の既刊「良寛の生涯とその歌」「愚庵の生涯とその歌」は広く一般に愛読され「万葉名作選（万葉集女流傑作朗詠レコード）」は頗る好評を博している。また草二郎歌集「行路」は本年五月発刊予定。詳細は東京都杉並区下高井戸五二二―一二竹下翠風女史に照会されるとよい。

「大坪草二郎先生の歌碑建立」

美しい樹々のお庭は枯木のように葉が落ち寂しさが増しているが、初冬の陽ざしを受けて暖く、寺内はうるわしい義士会の光景に溢れ、有難さも一ぱいであった。

追って今回京絃社編集の「協会の沿革記録」にある通り、このお寺は京都琵琶協会、一水会京都支部の例会や演奏会場として、昭和三十年から拝借している因縁深いお寺である。

（鷗水記）

京都市左京区仁王門通り東大路東入ルバス停から東一〇〇メートル、北側

十二月十日(日)十一月赤穂市花岳寺、主催西川旭操会。赤垣源蔵一上妻旭陽生松の廊下大西旭恵高田の馬場三宅旭栄田村邸植村旭照南部坂山田旭晃大高源吾一岡野旭兜大石主税谷口旭孝神崎与五郎一竜馬旭鳳村上喜劇竹本旭将原惣右エ門高垣旭晴別れの盃高旗旭光赤穂義士秋元旭震間重次郎の妻一宮垣旭璋寺坂吉右エ門伊藤旭暢断琴坂田旭弘義士の本懐一會主西川旭操。

吉祥寺の義士祭
十二月十四日(休)一時大阪天王寺区吉祥院、協賛大阪琵琶同好会。赤垣源蔵一矢野旭信

十二月十日(日)十一月赤穂市花岳寺、主催西川旭操会。赤垣源蔵一上妻旭陽生松の廊下大西旭恵高田の馬場三宅旭栄田村邸植村旭照南部坂山田旭晃大高源吾一岡野旭兜大石主税谷口旭孝神崎与五郎一竜馬旭鳳村上喜劇竹本旭将原惣右エ門高垣旭晴別れの盃高旗旭光赤穂義士秋元旭震間重次郎の妻一宮垣旭璋寺坂吉右エ門伊藤旭暢断琴坂田旭弘義士の本懐一會主西川旭操。

十二月十日(日)十一月赤穂市花岳寺、主催西川旭操会。赤垣源蔵一上妻旭陽生松の廊下大西旭恵高田の馬場三宅旭栄田村邸植村旭照南部坂山田旭晃大高源吾一岡野旭兜大石主税谷口旭孝神崎与五郎一竜馬旭鳳村上喜劇竹本旭将原惣右エ門高垣旭晴別れの盃高旗旭光赤穂義士秋元旭震間重次郎の妻一宮垣旭璋寺坂吉右エ門伊藤旭暢断琴坂田旭弘義士の本懐一會主西川旭操。

十二月十日(日)十一月赤穂市花岳寺、主催西川旭操会。赤垣源蔵一上妻旭陽生松の廊下大西旭恵高田の馬場三宅旭栄田村邸植村旭照南部坂山田旭晃大高源吾一岡野旭兜大石主税谷口旭孝神崎与五郎一竜馬旭鳳村上喜劇竹本旭将原惣右エ門高垣旭晴別れの盃高旗旭光赤穂義士秋元旭震間重次郎の妻一宮垣旭璋寺坂吉右エ門伊藤旭暢断琴坂田旭弘義士の本懐一會主西川旭操。

十二月十日(日)十一月赤穂市花岳寺、主催西川旭操会。赤垣源蔵一上妻旭陽生松の廊下大西旭恵高田の馬場三宅旭栄田村邸植村旭照南部坂山田旭晃大高源吾一岡野旭兜大石主税谷口旭孝神崎与五郎一竜馬旭鳳村上喜劇竹本旭将原惣右エ門高垣旭晴別れの盃高旗旭光赤穂義士秋元旭震間重次郎の妻一宮垣旭璋寺坂吉右エ門伊藤旭暢断琴坂田旭弘義士の本懐一會主西川旭操。

十二月十日(日)十一月赤穂市花岳寺、主催西川旭操会。赤垣源蔵一上妻旭陽生松の廊下大西旭恵高田の馬場三宅旭栄田村邸植村旭照南部坂山田旭晃大高源吾一岡野旭兜大石主税谷口旭孝神崎与五郎一竜馬旭鳳村上喜劇竹本旭将原惣右エ門高垣旭晴別れの盃高旗旭光赤穂義士秋元旭震間重次郎の妻一宮垣旭璋寺坂吉右エ門伊藤旭暢断琴坂田旭弘義士の本懐一會主西川旭操。

十二月十日(日)十一月赤穂市花岳寺、主催西川旭操会。赤垣源蔵一上妻旭陽生松の廊下大西旭恵高田の馬場三宅旭栄田村邸植村旭照南部坂山田旭晃大高源吾一岡野旭兜大石主税谷口旭孝神崎与五郎一竜馬旭鳳村上喜劇竹本旭将原惣右エ門高垣旭晴別れの盃高旗旭光赤穂義士秋元旭震間重次郎の妻一宮垣旭璋寺坂吉右エ門伊藤旭暢断琴坂田旭弘義士の本懐一會主西川旭操。

十二月十日(日)十一月赤穂市花岳寺、主催西川旭操会。赤垣源蔵一上妻旭陽生松の廊下大西旭恵高田の馬場三宅旭栄田村邸植村旭照南部坂山田旭晃大高源吾一岡野旭兜大石主税谷口旭孝神崎与五郎一竜馬旭鳳村上喜劇竹本旭将原惣右エ門高垣旭晴別れの盃高旗旭光赤穂義士秋元旭震間重次郎の妻一宮垣旭璋寺坂吉右エ門伊藤旭暢断琴坂田旭弘義士の本懐一會主西川旭操。

十二月十日(日)十一月赤穂市花岳寺、主催西川旭操会。赤垣源蔵一上妻旭陽生松の廊下大西旭恵高田の馬場三宅旭栄田村邸植村旭照南部坂山田旭晃大高源吾一岡野旭兜大石主税谷口旭孝神崎与五郎一竜馬旭鳳村上喜劇竹本旭将原惣右エ門高垣旭晴別れの盃高旗旭光赤穂義士秋元旭震間重次郎の妻一宮垣旭璋寺坂吉右エ門伊藤旭暢断琴坂田旭弘義士の本懐一會主西川旭操。

十二月十日(日)十一月赤穂市花岳寺、主催西川旭操会。赤垣源蔵一上妻旭陽生松の廊下大西旭恵高田の馬場三宅旭栄田村邸植村旭照南部坂山田旭晃大高源吾一岡野旭兜大石主税谷口旭孝神崎与五郎一竜馬旭鳳村上喜劇竹本旭将原惣右エ門高垣旭晴別れの盃高旗旭光赤穂義士秋元旭震間重次郎の妻一宮垣旭璋寺坂吉右エ門伊藤旭暢断琴坂田旭弘義士の本懐一會主西川旭操。

十二月十日(日)十一月赤穂市花岳寺、主催西川旭操会。赤垣源蔵一上妻旭陽生松の廊下大西旭恵高田の馬場三宅旭栄田村邸植村旭照南部坂山田旭晃大高源吾一岡野旭兜大石主税谷口旭孝神崎与五郎一竜馬旭鳳村上喜劇竹本旭将原惣右エ門高垣旭晴別れの盃高旗旭光赤穂義士秋元旭震間重次郎の妻一宮垣旭璋寺坂吉右エ門伊藤旭暢断琴坂田旭弘義士の本懐一會主西川旭操。

十二月十日(日)十一月赤穂市花岳寺、主催西川旭操会。赤垣源蔵一上妻旭陽生松の廊下大西旭恵高田の馬場三宅旭栄田村邸植村旭照南部坂山田旭晃大高源吾一岡野旭兜大石主税谷口旭孝神崎与五郎一竜馬旭鳳村上喜劇竹本旭将原惣右エ門高垣旭晴別れの盃高旗旭光赤穂義士秋元旭震間重次郎の妻一宮垣旭璋寺坂吉右エ門伊藤旭暢断琴坂田旭弘義士の本懐一會主西川旭操。

「本陣をつかれて敗走。大阪・平野あたりで家康が後藤又兵衛に刺された。カゴにかつがれ、堺の南宗寺に逃げこんだが、間もなく落命した。「家康死す」と大阪方にわかれば、諸大名が再び豊臣に寝返りを、と見た側近が体つきの良い似た小笠原秀政（この功績で後に古河城二万石の城主となった）を家康に仕立て、家康の遺体は南宗寺の昭堂の床下にひそかに埋めた。これが真相だと伝えられている。

その床下には家康を弔う印塔があったが、第二次大戦の堺空襲でなくなった。また、戦災まで権現堂もあって、毎年五月に権現祭が催され、草市が開かれたが、これも終戦とともに消えた。いま、境内の坐雲亭の近くに「東照宮徳川家康墓」が立派な御影石で建てられている。これは、昭和四十年ごろ水戸徳川家初代家老三木仁兵衛の子孫、三木啓次郎氏が「家康堺死亡説」を主張し、共鳴した岩上二郎茨城県知事、河盛安之介堺市長、塚原俊郎国務大臣、松下電器の松下幸之助氏ら九人が、四十二年四月十七日に建立した。

二代将軍秀忠が元和九年七月十日、三代将軍家光が同年八月十八日に南宗寺を訪れているが、この時期、面將軍が堺を訪れなければならぬ理由はない。將軍交替の報告や菩提を弔うために堺にやって来たのと、埋葬してあった家康の遺体を静岡奥久能山に改葬するためだったという。更に正史では、豊臣が滅亡して約一年後に家康は死んでいるが、この間、だれとも殆んど会わなかったのも確かだ、

「茨木」 「道成寺」 「戻り橋」 「恩讐の彼方へ」その他幾多の名作で琵琶界に大きく貢献し各派琵琶人に馴染み深い故大坪草二郎先生の歌碑が今般信州諏訪湖畔に建立され一月六日その除幕式が厳肅裡に挙行された。

なお、先生遺作の既刊「良寛の生涯とその歌」「愚庵の生涯とその歌」は広く一般に愛読され「万葉名作選（万葉集女流傑作朗詠レコード）」は頗る好評を博している。また草二郎歌集「行路」は本年五月発刊予定。詳細は東京都杉並区下高井戸五二二―一二竹下翠風女史に照会されるとよい。

十二月十日(日)十一月赤穂市花岳寺、主催西川旭操会。赤垣源蔵一上妻旭陽生松の廊下大西旭恵高田の馬場三宅旭栄田村邸植村旭照南部坂山田旭晃大高源吾一岡野旭兜大石主税谷口旭孝神崎与五郎一竜馬旭鳳村上喜劇竹本旭将原惣右エ門高垣旭晴別れの盃高旗旭光赤穂義士秋元旭震間重次郎の妻一宮垣旭璋寺坂吉右エ門伊藤旭暢断琴坂田旭弘義士の本懐一會主西川旭操。

十二月十日(日)十一月赤穂市花岳寺、主催西川旭操会。赤垣源蔵一上妻旭陽生松の廊下大西旭恵高田の馬場三宅旭栄田村邸植村旭照南部坂山田旭晃大高源吾一岡野旭兜大石主税谷口旭孝神崎与五郎一竜馬旭鳳村上喜劇竹本旭将原惣右エ門高垣旭晴別れの盃高旗旭光赤穂義士秋元旭震間重次郎の妻一宮垣旭璋寺坂吉右エ門伊藤旭暢断琴坂田旭弘義士の本懐一會主西川旭操。

十二月十日(日)十一月赤穂市花岳寺、主催西川旭操会。赤垣源蔵一上妻旭陽生松の廊下大西旭恵高田の馬場三宅旭栄田村邸植村旭照南部坂山田旭晃大高源吾一岡野旭兜大石主税谷口旭孝神崎与五郎一竜馬旭鳳村上喜劇竹本旭将原惣右エ門高垣旭晴別れの盃高旗旭光赤穂義士秋元旭震間重次郎の妻一宮垣旭璋寺坂吉右エ門伊藤旭暢断琴坂田旭弘義士の本懐一會主西川旭操。

十二月十日(日)十一月赤穂市花岳寺、主催西川旭操会。赤垣源蔵一上妻旭陽生松の廊下大西旭恵高田の馬場三宅旭栄田村邸植村旭照南部坂山田旭晃大高源吾一岡野旭兜大石主税谷口旭孝神崎与五郎一竜馬旭鳳村上喜劇竹本旭将原惣右エ門高垣旭晴別れの盃高旗旭光赤穂義士秋元旭震間重次郎の妻一宮垣旭璋寺坂吉右エ門伊藤旭暢断琴坂田旭弘義士の本懐一會主西川旭操。

十二月十日(日)十一月赤穂市花岳寺、主催西川旭操会。赤垣源蔵一上妻旭陽生松の廊下大西旭恵高田の馬場三宅旭栄田村邸植村旭照南部坂山田旭晃大高源吾一岡野旭兜大石主税谷口旭孝神崎与五郎一竜馬旭鳳村上喜劇竹本旭将原惣右エ門高垣旭晴別れの盃高旗旭光赤穂義士秋元旭震間重次郎の妻一宮垣旭璋寺坂吉右エ門伊藤旭暢断琴坂田旭弘義士の本懐一會主西川旭操。

十二月十日(日)十一月赤穂市花岳寺、主催西川旭操会。赤垣源蔵一上妻旭陽生松の廊下大西旭恵高田の馬場三宅旭栄田村邸植村旭照南部坂山田旭晃大高源吾一岡野旭兜大石主税谷口旭孝神崎与五郎一竜馬旭鳳村上喜劇竹本旭将原惣右エ門高垣旭晴別れの盃高旗旭光赤穂義士秋元旭震間重次郎の妻一宮垣旭璋寺坂吉右エ門伊藤旭暢断琴坂田旭弘義士の本懐一會主西川旭操。

十二月十日(日)十一月赤穂市花岳寺、主催西川旭操会。赤垣源蔵一上妻旭陽生松の廊下大西旭恵高田の馬場三宅旭栄田村邸植村旭照南部坂山田旭晃大高源吾一岡野旭兜大石主税谷口旭孝神崎与五郎一竜馬旭鳳村上喜劇竹本旭将原惣右エ門高垣旭晴別れの盃高旗旭光赤穂義士秋元旭震間重次郎の妻一宮垣旭璋寺坂吉右エ門伊藤旭暢断琴坂田旭弘義士の本懐一會主西川旭操。

十二月十日(日)十一月赤穂市花岳寺、主催西川旭操会。赤垣源蔵一上妻旭陽生松の廊下大西旭恵高田の馬場三宅旭栄田村邸植村旭照南部坂山田旭晃大高源吾一岡野旭兜大石主税谷口旭孝神崎与五郎一竜馬旭鳳村上喜劇竹本旭将原惣右エ門高垣旭晴別れの盃高旗旭光赤穂義士秋元旭震間重次郎の妻一宮垣旭璋寺坂吉右エ門伊藤旭暢断琴坂田旭弘義士の本懐一會主西川旭操。

十二月十日(日)十一月赤穂市花岳寺、主催西川旭操会。赤垣源蔵一上妻旭陽生松の廊下大西旭恵高田の馬場三宅旭栄田村邸植村旭照南部坂山田旭晃大高源吾一岡野旭兜大石主税谷口旭孝神崎与五郎一竜馬旭鳳村上喜劇竹本旭将原惣右エ門高垣旭晴別れの盃高旗旭光赤穂義士秋元旭震間重次郎の妻一宮垣旭璋寺坂吉右エ門伊藤旭暢断琴坂田旭弘義士の本懐一會主西川旭操。

十二月十日(日)十一月赤穂市花岳寺、主催西川旭操会。赤垣源蔵一上妻旭陽生松の廊下大西旭恵高田の馬場三宅旭栄田村邸植村旭照南部坂山田旭晃大高源吾一岡野旭兜大石主税谷口旭孝神崎与五郎一竜馬旭鳳村上喜劇竹本旭将原惣右エ門高垣旭晴別れの盃高旗旭光赤穂義士秋元旭震間重次郎の妻一宮垣旭璋寺坂吉右エ門伊藤旭暢断琴坂田旭弘義士の本懐一會主西川旭操。

十二月十日(日)十一月赤穂市花岳寺、主催西川旭操会。赤垣源蔵一上妻旭陽生松の廊下大西旭恵高田の馬場三宅旭栄田村邸植村旭照南部坂山田旭晃大高源吾一岡野旭兜大石主税谷口旭孝神崎与五郎一竜馬旭鳳村上喜劇竹本旭将原惣右エ門高垣旭晴別れの盃高旗旭光赤穂義士秋元旭震間重次郎の妻一宮垣旭璋寺坂吉右エ門伊藤旭暢断琴坂田旭弘義士の本懐一會主西川旭操。

十二月十日(日)十一月赤穂市花岳寺、主催西川旭操会。赤垣源蔵一上妻旭陽生松の廊下大西旭恵高田の馬場三宅旭栄田村邸植村旭照南部坂山田旭晃大高源吾一岡野旭兜大石主税谷口旭孝神崎与五郎一竜馬旭鳳村上喜劇竹本旭将原惣右エ門高垣旭晴別れの盃高旗旭光赤穂義士秋元旭震間重次郎の妻一宮垣旭璋寺坂吉右エ門伊藤旭暢断琴坂田旭弘義士の本懐一會主西川旭操。

これを堺説の裏付け資料とする人が多い。堺の歴史に詳しい菊月正明堺市秘書部長は、この「堺説」の裏側を次の如く解説している。

真偽の程は兎も角、秀吉びいきの大坂にあつて、堺だけは家康びいきが多かつた。秀吉はドラマの中で助左と親しく付き合っているが、大関になると堺の豪商を半強制的に大阪に移住させて、堺衰退のきっかけをつくつた。

環豪（かんごう）も埋め、堺文化人のトップだった千利休を自刃させた。ところが、家康は、堺を直轄領として重視し、環豪をよみがえらせ、明治に到るまで、一部ではあるが住民自治を許した。家康への親しみが、この伝説を生んでも不思議ではない。

師走十四日、本妙寺では例年のように義士会が催された。門前には大きい看板が立ててある。

琵琶奉納
本妙寺義士会

絃友桜井旭富氏は四十七士の前で奉納したいと念願、また山岡旭清女史も荒木旭媛女史と同伴、琵琶を携えて参拝された。

いかめしい打入り姿の四十七士の像、義士の仏前、赤い毛氈の床几に正座し、まず桜井

十二月十日(日)十一月赤穂市花岳寺、主催西川旭操会。赤垣源蔵一上妻旭陽生松の廊下大西旭恵高田の馬場三宅旭栄田村邸植村旭照南部坂山田旭晃大高源吾一岡野旭兜大石主税谷口旭孝神崎与五郎一竜馬旭鳳村上喜劇竹本旭将原惣右エ門高垣旭晴別れの盃高旗旭光赤穂義士秋元旭震間重次郎の妻一宮垣旭璋寺坂吉右エ門伊藤旭暢断琴坂田旭弘義士の本懐一會主西川旭操。

